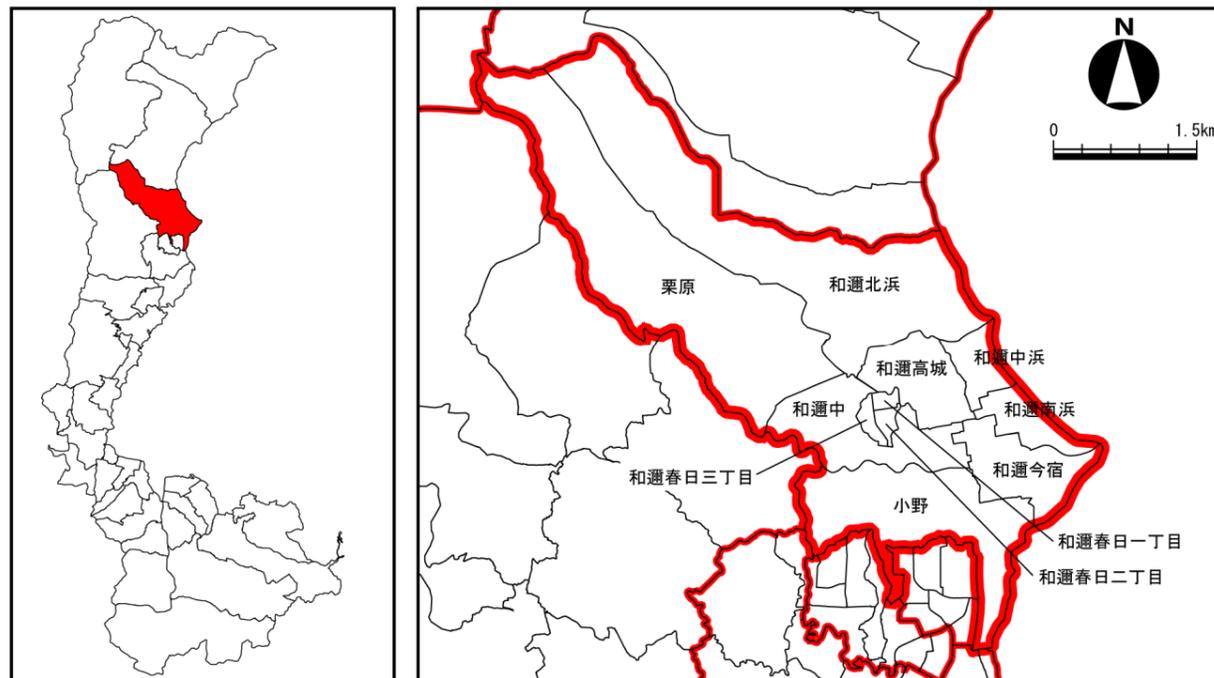


■ 学区の概況



<町丁名>

小野、和邇中、和邇今宿、和邇南浜、和邇中浜、和邇北浜、和邇高城、栗原、和邇春日一丁目、和邇春日二丁目、和邇春日三丁目

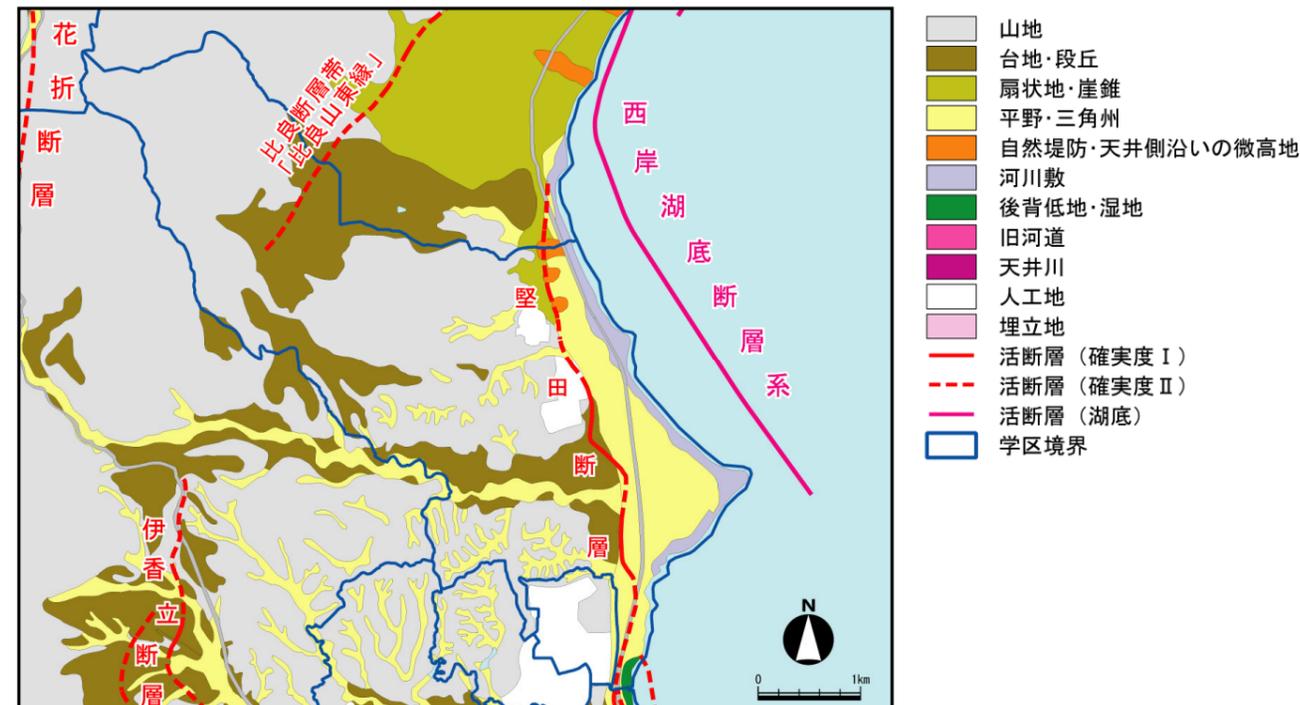
(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

和邇学区は、JR 和邇駅を中心に住宅地、商業施設、公共施設が集まっている。昭和 40 年ごろより宅地開発が盛んになり、人口は増加傾向にある。和邇川沿いには和邇公園が整備され、市民の憩いの場になっている。

和邇学区は、飛鳥時代から平安時代にかけて活躍した和邇氏の同族である小野氏の根拠地として栄えた。学区内には小野神社や小野篁神社、小野道風神社、小野妹子神社など、小野氏にまつわる文化財が多数分布している。特に JR 和邇駅から JR 小野駅にかけての地域には、いたる所に古墳や遺跡、寺社が点在しており、古代の歴史に触れることができる。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

<地形の特徴>

- 中・西部は、主に権現山、霊仙山などの山地や、堅田丘陵からなる。
- 平野部では喜撰川や和邇川に沿って平野・三角州が形成されている。

<地質の特徴>

- 権現山など北部は丹波帯と呼ばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 霊仙山は霊仙花崗閃緑岩からなる。これは中生代白亜紀後期の火成活動により形成された岩石である。
- 堅田累層は 100 万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

<活断層の特徴>

- 比良山地の東縁には比良断層帯が分布している。これは高島市鶴川から栗原までのびる長さ約 16km の活断層である。断層を挟んで相対的に西側が隆起する逆断層である。
- 堅田丘陵と低地との間には堅田断層が分布する。これは木戸学区の南船路から比叡辻までのびる長さ約 13km の活断層である。断層を挟んで相対的に西側が隆起する逆断層である。
- 湖底には湖岸線に沿うように西岸湖底断層系が分布する。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
小野	46.3	95.0	67.7	60.7
和邇中	43.5	91.3	78.7	32.4
和邇今宿	47.6	87.0	67.6	50.3
和邇南浜	51.0	84.1	71.1	56.4
和邇中浜	61.0	87.5	69.5	63.2
和邇北浜	42.4	96.0	74.2	41.6
和邇高城	52.3	80.2	58.3	30.1
栗原	53.3	98.2	83.5	72.6
和邇春日一丁目	48.1	64.1	52.9	0.0
和邇春日二丁目	52.0	73.5	52.2	0.0
和邇春日三丁目	52.9	72.4	55.1	0.0
学区平均	48.6	94.1	67.6	42.8
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況
2: 資産税データ (R4.4)

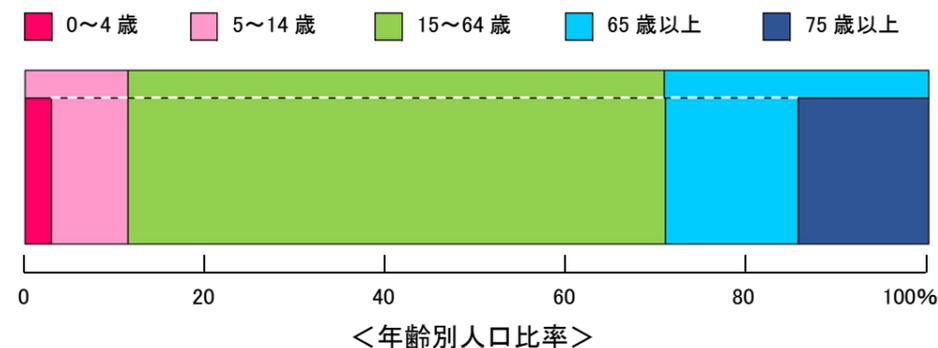
- 住宅密集度の学区平均は 48.6 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 94.1% で市平均の 93.9% と同程度である。
- 木造率は栗原が 83.5% で最も大きく、和邇春日二丁目が 52.2% で最も小さい。学区平均は 67.6% であり、市平均の 72.7% より低い。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は 42.8% であり、市平均の 40.3% より高い。なお、旧耐震木造建物割合が 0.0% である和邇春日一丁目～三丁目は、木造建物の全てが新しい耐震基準で建築されている。

■ 人口の状況

項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	8,353	人		—	1
年齢別 (0~4 歳)	240	人	学区人口に対する割合	2.9	1
年齢別 (5~14 歳)	707	人	学区人口に対する割合	8.5	1
年齢別 (15~64 歳)	4,966	人	学区人口に対する割合	59.5	1
年齢別 (65 歳以上)	2,440	人	学区人口に対する割合	29.2	1
年齢別 (75 歳以上)	1,209	人	学区人口に対する割合	14.5	1
世帯数	3,537	世帯		—	2
1 世帯当たり人口	2.4	人/世帯		—	2
要介護認定者	424	人	学区人口に対する割合	5.1	3
身体障害者 (要配慮者)	113	人	学区人口に対する割合	1.4	4
知的障害者 (要配慮者)	15	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	55	人	学区人口に対する割合	0.7	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)
3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)
5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 高齢者 (65 歳以上) は 2440 人、乳幼児 (0~4 歳) は 240 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 29.2%、2.9% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 424 人 (5.1%)、身体障害者 (要配慮者) は 113 人 (1.4%)、知的障害者 (要配慮者) は 15 人 (0.2%) である。
- 外国人居住者は 55 人 (0.7%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	27 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	4 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	23 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	38 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	4 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） ^(注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	4 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	6 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	346,913 m ²	6
(0.5m~1.0m)	406,649 m ²	6
(1.0m~2.0m)	430,230 m ²	6
(2.0m~)	80,138 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	1 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	2 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	4 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 和邇学区は大部分が山地もしくは丘陵地であり、地すべり防止区域や地すべり危険箇所に指定されている斜面が多く分布しているほか、土石流危険渓流も存在している。
- 斜面や溪流では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して二次的災害が発生する可能性もある。
- 造成地部では、地震時に被害が多発することが過去の事例などにより知られている。
- 栗原地区には指定地すべり防止区域、地すべり危険箇所が集中している。
- 学区の東部に堅田断層が通過し、琵琶湖底には西岸湖底断層系が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。とくに和邇今宿、小野地区では浸水深が2.0mを超えると想定される箇所がある。
- 湖岸部では液状化に対する備えも必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急 避難場所	和邇小学校グラウンド	○	○	○		和邇中 190
	和邇市民運動広場	○	○	○		和邇今宿 851
	道の駅妹子の郷駐車場	○	○	○		大津市和邇中 528
	道の駅妹子の郷施設棟	○	○	○		大津市和邇中 528
指定緊急 避難場所 兼 指定避難所	和邇小学校体育館	○	○	○		和邇中 190
	和邇文化センター	○	○	○		和邇高城 12
	和邇市民体育館	○	○			和邇高城 27-2
	志賀南幼稚園	○	○	○		和邇今宿 482-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
和邇文化センター	和邇高城 12	594-8022

<警察 110>

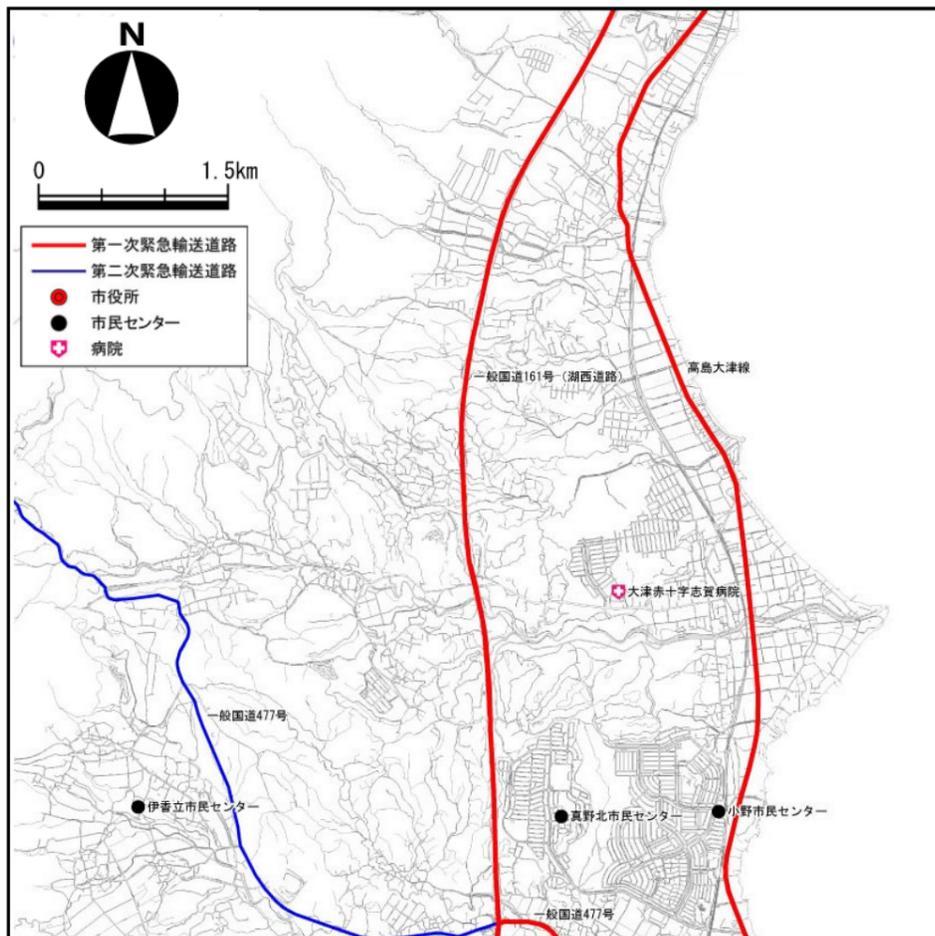
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
和邇駐在所	和邇中 190-1	594-0049

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
志賀分署	木戸 58	592-0119
和邇分団	和邇中浜 506-2	594-2119



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,672	8,891	1,723	826	2,136	51	27	35	92	47	64	5	3	4
ケース2	3,672	8,891	1,688	833	2,104	49	26	34	92	47	64	5	3	4
ケース3	3,672	8,891	1,116	885	1,558	25	13	17	119	60	83	7	4	5

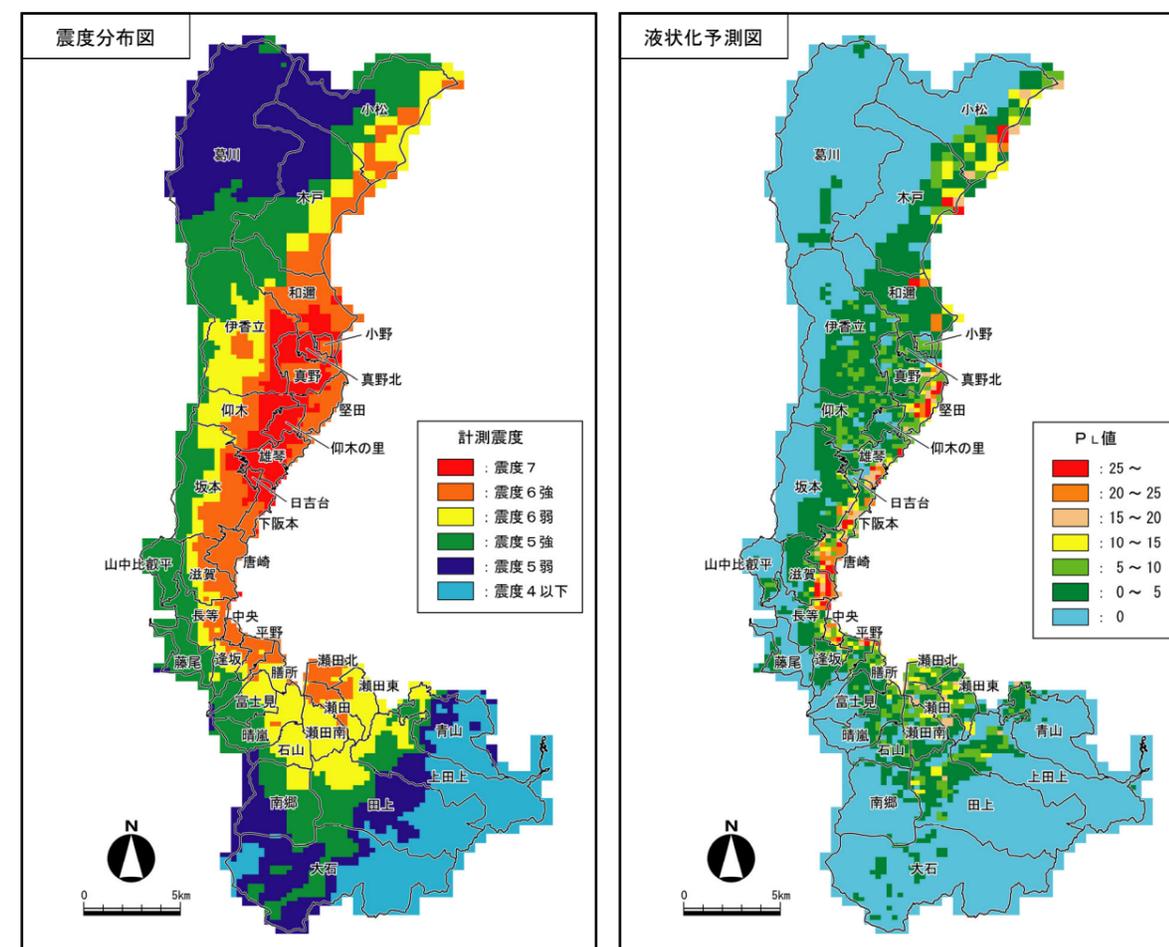
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
	ケース1	2	3	
ケース2	2	3	3	1,744
ケース3	1	2	2	1,393

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)